

# 一般質問



・人口減少の問題について

仁政クラブ 田口寿宜 議員

人口減少の問題について

**質問** 2040年に予測されている本市の人口は1万6743人となっている。この流れに任せるのか、維持していきたいのか。維持するお考えであるなら具体的な数字をお示し頂きたい。

**答弁** このままではいけない立場である。

1万6千人台で良しとするものではない。数値は、この後の施策で大きく左右されるものと思っている。

**質問** その施策について、産業振興、雇用対策の



次代を担う子ども達

観点から考えたい。調査したところ、市の第三セクターが行っている食材の仕入れについては、市内業者の割合が非常に低い。また、市内にも専門業者がいるにも関わらず、市外の業者のみでの入札が行われたりしているという声もある。このような現状を改善することで、市内の小規模・零細企業が活躍できる機会を増やし、人口流出の抑制につながる必要があると考えるがどうか。

**答弁** 市内の第三セクターに対しては、地元業者の利用について再三話しをしてきた。食材仕入れの市内発注率は半分以上と認識している。しかし、それが経営を圧

迫し、赤字経営を強いられるのは避ける必要がある。入札に関しては、当然に品質を求めることなどから、実績等を考慮し審査している。優先制度に基づき市内業者を優先することが鉄則であるが、独占禁止法に抵触するのではとの指摘もある。市内業者においては積極的な営業を行い入札に参加して頂きたい。

**質問** 企業誘致に対する考え方はもはや転換期を迎えている。欧米では本社のほとんどが地方に存在していると伺っているが、本市への本社誘致という視点も検討すべきではないのか。

**答弁** 国でもそういう動きを推進しているが、企業にとつては東京に本社を置いたほうが、メリットが大きいと判断しているようである。一方では、市内で操業している誘致企業の中にも、東京には営業機能だけを残り、本社機能のほとんどをこちらに移している企業もある。仙北市でもこの動きを加速できればと考えている。

## 地域の拠点づくり

**質問** 市内それぞれの集落では地域コミュニケーションの維持、元気の創出に

努めている。集落や町内会等で組織されている地域運営体も、今後、果たす役割が大きくなるものと考えている。地域運営体を核に、市役所・出張所などを拠点とし、行政と運営体が協働で地域づくりに取り組むべきと考えるがどうか。

**答弁** 地域運営体に様々な機能を更に担って頂くことは重要な視点である。それぞれの地域運営体の拠点は、今よりもっと出入りしやすいようオープンしていく必要がある。また、今後拠点となる施設を再確認し、活動目的のヒアリング等も行いたいと考えている。

## お年寄りの居場所づくり

**質問** 昨年10月1日現在において、市内全域で、65歳以上の高齢者ひとり暮らし世帯は1287世帯、高齢者のみで暮らしている世帯は1087世帯あるが、今後更に増加することが予測される。病気になる場合や、介護が必要な場合、特に要介護度1、2の方々の居場所づくりをもっと積極的に考えて行く必要があると思うがどうか。

**答弁** 将来この層の方々がれる中であつて、現状のままに対応することは難しいと考えている。新たな地域包括ケアシステムの構築で、地域の医療機関と福祉事務所が連携し高齢化社会を支えたい。その一方で、自宅で介護を受けたいと希望する方々は全体の70%を超えている。先進的な取り組みの例として、長野県のある地域では、地域の会館などを改修して、高齢者の方のみならず、託児所機能も併せ持つ「宅老所」という施設を開設している。こうした取り組みも参考にしていきたい。

(黒沢龍己記)



高齢者を支えるグループホーム

# 一般質問



本市でペレット生産の活用  
本市の森林資源の活用  
による雇用の拡大

議員 阿部則比古 民政会議

木質ペレット生産で本市の豊富な森林資源の活用による雇用の拡大を  
【質問】 昨夏、「里山資本主義」と題する一冊の本が発表され、大変な反響を呼んでいる。山林を計画伐採し、ペレット状の燃料にして永久に火力エネルギーを得るといものだが、全国の山林で灯油換算・年間4兆円、仙北市山林でも年間150億円生産可能という試算もある。伐採から製品化、販売まで含めると千人前後の雇用が期待出来る。日本の輸入赤字・エネルギー

ギー安全保障・燃料の今後の高騰を考えると国もこの方向にいいよ動き出す。国際的な先進地オーストラリアに職員を研修させて研究してはどうか。

【答弁】 「里山資本主義」では過疎地が未利用資源の宝庫という捉え方をしており、私の共感するところである。

ご指摘のオーストラリアのギユツシングを中心とする木質ペレットの取り組みは、ペレット工場からタンクローリーでペレットを各家庭や施設に配達する仕組みで、希望する時間にボイラーのスイッチをセットしておく自動的



普及が期待されるペレットストーブ

を熱源にした大きなエネルギーセンターの給湯設備から各家庭や施設へ配管で給湯や熱源が供給されるシステムである。

このシステムを通産省の再生可能エネルギーのスマートシティー構想で導入する事業があるが、現在進行している再生可能エネルギーの現状があり躊躇する。いずれ、今後の世界観を変えるエネルギー対策であり、また、まちづくりの基幹的な考えになることは間違いないと考えている。

合併時の旧町村将来計画の検証・総括は

【質問】 合併時に旧町村が将来の事業計画を持ち寄って、新市の建設計画が策定されたが、これまで検証や総括が一度もされていない。これについての市長の考えを伺う。

【答弁】 新市建設計画については、新市の将来像、基本理念などを定め、それに基づくまちづくりの方針、具体的には四つの目標と財政計画等を掲げている。

具体的な事業については、新市建設計画の基本理念を継承し、仙北市総合計画の策定、さらに実施計画で三カ年

のローリング方式による進行管理、複数段階での事業振興等を行ってきている。

総合計画の中の基本計画については、平成22年度末において、前期分の実績分析を行いその後の実施計画の資料として置かれた地域審議会で、各地域ごとの課題等について具体的なテーマを設け審議し施策への反映を図っている。

建設事業費の激減による就労機会の減少で人口減少が著しいが

【質問】 門脇市政になってから西木地区の建設事業費が合併前の5分の1に激減したため建設業に携わっていた方の就労機会の減少から人口減少も非常に著しい。国の各省庁や県などからさまざまな補助事業のメニューが随時提供されているが、こうした情報を素早く収集し、分析して、本市に適した事業をいち早く押さえるという、基本的な職務が的確に行われてきたのか伺う。

【答弁】 建設事業費は合併当初の平成17年度から21年度までは30億円台で推移し、平成22年度から24年度までは15億円から17億円台と半減し

ている。この要因は統合角館小学校、汚泥処理センター、神代小学校、木質バイオマス施設の建設等の多くの大規模なプロジェクトが終了したことと財政状況の改善ということもある。

西木地区の建設事業については、合併前に国からの補助事業に有利な過疎指定地域だからこそがあったと思うが、生活環境の整備を優先して安全・安心な食糧生産を行うという哲学を持った政治リーダーがいたことで、次世代を先取りして下水処理・水道施設、道路事業等のインフラ整備が角館・田沢湖地区より早く進展した。そのため新市になってから市内全域の均衡ある発展を図るため両地区のインフラ整備に多くの予算をかけているが、地域バランスを欠くような予算配分や恣意的な思いはない。

交付税の減額、市税の減少など歳入構造が硬直する中で、その構造転換に努力している真つ最中で、全額国庫補助、また補助率の高い事業の導入など、市の財政を圧迫しない影響の少ない国・県事業の導入を進めている状況である。

(門脇民夫記)

# 一般質問



## ・市道の除雪体制の改善について

翠巒会 大石温基 議員

### 市道の除雪体制の改善について

**質問** 各世帯において家の前の入口付近へ道路の除雪した雪が残って困っている話を多数聞か、除雪時間帯の変更や除雪機械の改良等により改善はできないものか。

**答弁** 市が管理する道路は四八一・五km、路線数一一四二路線、委託業者33社、委託運転員89名の体制で平成25年冬期は除雪を行ってきた。

主要道路を主体としてバス路線、通勤・通学路の除雪を優先的に実施して、朝7時をめぐりに終了する行程で除雪を行ってきた。

時間的な制約や市道の除雪ポリウム等を考え合わせるとこのような状況が発生してしまうということが現実的な話と感じている。

原則的には、残された雪の処理は、各世帯での対処をお願いするものではあるが、そのような状況をつくらぬように、シーズン前の除雪会議等の場で除雪委託業者に対し配慮をお願いしているところである。

除雪機械の改良等については、排土板へのアタッチメント等について、対応ができれば装着を考えていきたい。

### 市道認定の基準について

**質問** 高齢化の進展により、高齢化世帯、一人暮らしの世帯が増えている中、市道からその世帯までの道路が市道認定になっておらず、冬期間や緊急時等、不便を強いられる場合が見受けられるが、安心して安全に暮らせる環境づくりのため、市道認定の基準を改めることはできないのか。

市道認定基準は、集落の相互を結ぶ道路であるとか、二戸以上の住宅に通じる道路であるとか、要件は決まってはいるが、生活圏を守る手段として公費の投入しか改善の余地はない事案については、別の手法も考えあわせて、ケースバイケースで対応していきたい。

**答弁** 市道認定基準は、集落の相互を結ぶ道路であるとか、二戸以上の住宅に通じる道路であるとか、要件は決まってはいるが、生活圏を守る手段として公費の投入しか改善の余地はない事案については、別の手法も考えあわせて、ケースバイケースで対応していきたい。

**質問** 家庭排水等の集合処理が出来ない地域においては合併処理浄化槽が普及してきているが、近年その増加に伴い、設置された場所の下流部の水路において悪臭が発生し、地域住民から苦情が寄せられているというケースがあるが、行政としてその対策は出来ないものか。

**答弁** 合併処理浄化槽からの排水は、設置した世帯等での対応ということが原則ではある。

個別の対応というかたちで可能なことがあるとすれば考えていきたいが、それも出来ない状況である。

行政が支援できることとその地域でやるべきことのすり合わせをおこない、今後のことを考えていきたい。

**質問** 神代地域の上水道未普及地区の今後の対応について、現在は新たな水源としてボーリング調査等を行っている状況ではあるが、

生保内の浄水場からの水を利用するなどして、事業を早められないものか。

**答弁** 今年度予算で水源確保のための揚水試験を行う事となっているが、水源を定めなければ事業は進まないで、その結果も考慮しながら方向性を定め、事業を進めたいと考えている。

(真崎寿浩記)



アタッチメント付きの除雪機械



浄化槽から流される生活排水路

# 一般質問



・さくら祭りについて

市民クラブ 八柳良太郎 議員

さくら祭りについて

**質問** 今年のさくら祭りは「よかった」との声があるが、実行委員会はどう評価しているか。(観光客入込数や経済効果等を含め)

**答弁** 桜まつりは昨年同時期比76,000人多い122万6,000人のお客様を迎え、松木内川堤のソメイヨシノも見事に咲き、交通事故、渋滞等もなかった。刺巻のミズバシヨウ、八津・鎌足のカタクリ群生も合わせ花紀行仙北市の春を満喫された。

**質問** 合併の基本理念「観光産業を生かしたまちづくり」との関連、武家屋敷保存・維持に対する住民の理解と協力はどうか。

**答弁** 角館町全体の案内表示のあり方、休憩所、トイレ清掃等改善課題もあり、武家屋敷の開放、歩行者を含め、地元住民の御理解、御協力で実施しているが、5年後、10年後将来的展望も含め未だ議論されていない。

**質問** 駐車場の受入れ台数にも課題がある。また、丁寧な対応や、農地の駐車場の活用や、公的駐車場の案内地図作成などを行い、滞留時間を延ばす必要があると考えるがどうか。また、JR角館駅から武家屋敷までのトイレが少ないことも課題であるが解決策について伺う。

**答弁** 大規模渋滞が発生しなかったのは、民間駐車場開設がその一翼を担った。国民文化祭を控え、トイレの設置についても再考したい。

**質問** 出店の収益について把握するため、税務には使用しない前提で、自主申告をお願いする事はできないか。

**答弁** 出店者の収益は天候に多く左右される。正直なところ収益を自主申告して頂くことはばかられる。

秋田仙北夢牧場について

**質問** 平成25年度大規模肥育牛団地整備事業(仙北夢牧場)について、雇用者数の状況や、肥育牛出荷の現状について伺う。

**答弁** 仙北夢牧場では、6月3日に交雑種28頭を秋田市場と横浜市場に出荷

し、B2、B3の格付けを頂き、市場平均価格を上回った。夢牧場では、現在雇用者数は3名であるが、食肉は、レストラン、旅館から既に引き合いがあり、今後ステーキハウス等を展開した場合など、更なる雇用が期待される。

国民文化祭について

**質問** 第29回国民文化祭(10月4日～11月3日)が開催されるが、さらさら太鼓競演会の意義について伺う。また、期間中の参加人数や宿

泊者数などはどのように見込んでいるのか。

**答弁** (教育長) 国民文化祭民族芸能祭典は約1万人規模予定している。(県全体では約30万人) 10月12日に田沢湖芸術村で「青少年東北民俗芸能の祭典」、10月26日には「飾山ばやし・仙北市さら大競演会」を催し、仙北市の文化を全国に発信したい。また、宿泊人数は大正琴奏者約1,300人と関係者を予定している。

(高久昭二記)



多くの観光客でにぎわった桜祭り(松木内川堤)



国民文化祭の看板(角館駅前)

# 一般質問



・人口の減少を踏まえた政策の転換について

高久昭二 議員

**質問** 人口減少が著しく、財政運営も厳しくなる中、市長の政策についても方向転換が必要ではないのか。

**答弁** 人口減少に歯止めがかからない状況であるが、経済対策と一体的に定住対策や、雇用環境の整備による基盤確立等の政策に取り組んでいる状況にある。政策を進めるにあたっては、一定期間実施した事業結果を検証し、次の施策に生かすこと、あわせて、常に国・県の

動向や社会情勢の変化を感じ取り、実施時期を的確に判断することとしている。市を取り巻く環境、財政状況、行政需要の変化を考慮した上で毎年政策の見直しは行っているが、市の発展のためには、どの施策も同時に進めなければならぬものばかりである。財政状況等に大きな変化がある場合を除いては、現在進めている市政の軸となる政策は継続して行くが、総花的にならない財政運営に努めたい。

**質問** (株)食品工業の誘致に対する市の対応について

**質問** 株式会社司食品工業を誘致するため、企業誘致推進室を立ち上げ、秋田工場の誘致建設に向けて動いているが、用地買収や造成を始め、過去に例を見ない程の優遇措置が施されている。今回の工場用地を選定するにあたり、どのような判断があったのかについて伺う。また、これまでに2億1千万円もの一般財源を拠出しているが、この先さらにどれだけの支出を考えているのか伺う。

**答弁** 用地について企業側が希望する内容は、地

下水があることと、面積を2万5千㎡〜3万㎡確保したいという内容だったため、そうした要件に合致する場所を数カ所視察頂いたが、いずれも適さないという判断だった。その後、企業側が国道に沿った箇所を希望したため、再度視察を行って先方社長が現在の箇所を指定した経緯がある。また、市では工業団地を所有していないが、考え方は同様に進めたいという思いもあり、今回の誘致に際し、用地取得や造成、インフラ整備を実施することにした。さらに、企業立地促進条例に基づいた固定資産税相当の奨励金なども予定されている。市が取得した土地はスタート地点では賃貸を考えている。企業の進出があったことで得られる財政的なメリットについては、直接的には固定資産税、地方消費税、法人市民税、雇



(株)食品工業建設予定地

用者の市民税、雇用者自身の所得などを始めとし、年間1億円程度の財政効果が期待される。さらに原料の提供、燃料の提供、取引先や視察者など会社訪問のビジネス需要も地域経済にプラスの影響を与えると考える。

**質問** 角館庁舎の老朽化対策と本庁舎整備について

**質問** 本年2月に、市内の各庁舎の耐震診断結果が出されたが、市ではそれを受け、老朽化が著しい角館庁舎については一部危険性が高い箇所を立入禁止にするなどの対応を講じている。今後、角館庁舎は移転改築し、既存の公共施設の活用や、民間施設等の利用も含め、本庁舎機能を持った庁舎にすべきと考えるがどうか。また、火除けの復元についての考え方も併せて伺う。

**答弁** 一つのアイデアとして受け止める。現在、庁舎整備基本構想の核となる統合庁舎の場所や整備手法等を選定するにあたっての関連基

礎データの収集、検討作業を進めている最中である。いずれ素案を示すので協議して頂きたい。

指摘のあった角館庁舎の移転、一体型庁舎の整備並びに火除けの復元については、それぞれが密接に関係する事案であり、切り離して考えることが難しい。こうしたことから、構想の中では、一体型庁舎の整備のみならず、すべての庁舎の考え方も含むことにしている。角館庁舎移転等の方向性については、先の耐震診断調査の結果において、IS値が極端に低く、仮に耐震補強工事を実施する場合は、建物内部に増設耐震壁を設置しなければならぬ。建物内部に耐震壁を設置すると、非常に使い勝手が悪くなつて、庁舎としての機能や市民の利便性を大きく損なうことが予想される。このような状況のため、現角館庁舎は取り壊しの方向で検討をしている。

また、庁舎解体後の火除け復元については、かなりの検討が必要と考える。角館の歴史的背景であったり、将来のあるべき姿であったり、将来の考えた上で復元させてきたい。

(高橋豪記)

# 一般質問



・(株)秋田仙北夢牧場について

仁政クラブ 黒沢龍己 議員

## 仙北夢牧場について

**質問** 仙北夢牧場は当初の計画通り順調に実施され、運営されているのか、また、現在の状況と事業の狙い、効果について伺う。

**答弁** 現在（平成26年6月）の頭数は、交雑種167頭、黒毛和種が292頭の459頭となっている。来年の4月から5月に600頭になる予定である。

また、経営面でいうと、口蹄疫の発生、子牛生産の不足、世界的な飼料の値上がり等に伴って、当初計画よりも厳し

い状況にある。しかしながら、県、JA、金融機関等との、サポート体制は万全である。

去る6月3日には、交雑種28頭が出荷され、市場平均価格を上回る価格で取引されている。今後、交雑種は12月に出荷を終え、全て黒毛和種に切り替わる予定である。

**質問** 仙北市産の子牛が、黒毛和牛、肥育牛として出荷されることが夢牧場と畜産農家の連携が図られると思うし、そこに期待している。地元の子牛は何頭買入れしているのか伺う。

**答弁** 6月現在で、268頭中69頭である。

**質問** 稲わら、飼料用米にたいして、今年ほどのくらの数量が仙北市の農家から搬入できるのか伺う。

**答弁** 生産農家において収穫、供給に必要な機材が不足しているという実態があり、現在は市内の農家からの粗飼料の搬入は行われていない。地域の経済活動の支援の観点から、今後夢牧場と供給等について、交渉し、目標設定を行い、機械導入等の事業についても検討し、地元生産の粗飼料提供の実現を目指す。

**質問** 堆肥の無償提供の時期、量について伺う。

**答弁** 牛舎竣工の遅れ等があり、ご迷惑をお掛けしているが、今年の秋口から供給が可能であると見込んでいる。また、来年度から堆肥処理施設の整備計画に着手し、良質の堆肥生産を進めていきたいと考えている。

## 中川地区公共施設の上水道について

**質問** 中川地域には小学校、保育園、集落センターの3つの施設があり、全て地下水を利用している。年間を通しての水質は、良い時も悪い時もあり、子供達は先生の指導に従っている状況である。昨年には、寺沢地区まで

配水本管が敷設されている。そこで、今後3施設の上水道整備計画について伺う。

**答弁** 小学校については、投資効率の面から若神子線を利用する予定である。保育園の計画については、平成27年度に、実施する予定である。また、集落センターについては、水道ポンプの老朽化に原因があり、現在は準備段階である。

## NHK全国「のど自慢」の開催について

**質問** 仙北市は、合併して10年を迎えようとしており、観光産業も売りの一つとしている。今後の観光客を呼び込む手段として、NHKの「のど自慢」の招致も一方

策と考えるが、市長の見解を問う。

**答弁** 以前から市民からの要望も強く、昨年から合併10周年記念事業という形で招致が出来ないかということと、昨年からNHK秋田放送局にトップセールスを行っている。仙北市は、過去に開催実績があること、市民会館を有していることから、開催にあたっての条件はクリアし、一定の評価を得ている。現状では、競争率が高く、各県への配分等のバランスもあるということであるが、開催への働きかけを引き続き継続していく。

(佐藤大成記)



出荷前の肥育牛



無償提供する堆肥